
2017 年度 第 1 回 音環境運営委員会 議事録 (案)

記録：石塚

A. 日時 2017 年 6 月 1 日 (木) 17 時 00 分～18 時 50 分

B. 場所 建築学会 304 会議室

C. 出席者 古賀貴士 (主査), 漆戸幸雄, 岡野利行, 川井敬二, 佐久間哲也, 田中学, 富高隆, 富田隆太, 中澤真司, 羽入敏樹, 濱田幸雄, 山内崇, 富来礼次 (幹事), 石塚崇 (幹事)

欠席者 池上雅之, 石渡智秋, 大嶋拓也, 坂本慎一, 佐藤洋, 平光厚雄
(敬称略)

D. 提出資料

資料 1-0 : 2016 年度第 4 回音環境運営委員会議事録 (案)

資料 1-1 : 2017 年度第 1 回環境工学本委員会資料

資料 1-2 : 2017AIJ 若手優秀発表依頼状(案)

資料 1-3 : 20170601AIJ 若手優秀発表採点シート (案)

E. 議事記録

1. 前回議事録の確認

- ・修正事項 : 2. (8) 英文「誌」に修正
- ・修正事項 : 2. (13) → 「連絡していただきたい」
- ・修正事項 : 2. (21) 「46 名。」 → 「46 名,」
- ・以上を修正して承認

2. 環境工学本委員会報告 (資料 1-1)

- ・委員長・幹事が決定した。委員長は岩田利枝先生(東海大学)。
- ・昨年度決算について。研究枠の消化率が例年悪い状況を鑑み、今年度は、基本：研究の比率を 80:20 で割り当てたい旨説明があった。
- ・来年度大会日程：2018 年 9 月 4 日 (火) ～6 日 (木) : 3 日間@東北大学川内北キャンパス
- ・昨年度 (2016 年度) 大会発表件数分析：前年度と比べ、やや減だが全体としては増加傾向にある。環境工学も増傾向である。
- ・2017 年度大会 OS の投稿・採択状況：音環境の OS で不採択が 1 件あった。件数を絞るため、企画した小委員会からの発表を取下げたためである。OS については、今後も継続して開催したいので計画を考えてほしい。
- ・大会梗概の取り下げ・取り消し：環境工学では 2 件取り下げがあった。
- ・2017 年度建築学会賞受賞者記念講演：環境工学は 9/1 午前中に開催予定である。
- ・プログラム編成会議(4/20)：無事終了した。英語発表セッションの希望についてプログラム編成に反映されていなかったが、これについては、来年度以降の課題とする。
- ・2017 年度大会会期中の非公式行事：会議室はまだ空きのある状況である。
- ・2017 年度大会若手優秀発表賞：WEB 上に実施要領が UP されている(3/1)。
- ・英文誌(Japan Architectural Review)応募規定(案)：黄表紙から選抜された翻訳論文が基本。Editor-in-chief は田辺先生、環境系 Associate Editors は伊藤先生、大岡先生、音の Editorial Board Member は上野先生
- ・2017 年度大会懇親会：9/1 ホテルグランヴィア広島、申し込みは 7/31 までにメールにて。
- ・2017 年度技術部門設計競技について：6/15 〆切、8/31 表彰式。
- ・日本建築学会環境規準：来年度以降作成したい場合は、7 月までに環境基準作成小委員会に提出のこと。改

定は11月までに。音環境は新たな改定予定はなし。学校が改定準備中。音声伝送は昨年度改定せずと回答。次回は2020年度の予定。

- ・シンポジウム報告：第78回音シンポジウム スピーチプライバシー～(参加者43名)
他分野の状況：光環境が精力的に開催している。(2月に3回)
- ・委員委嘱(案)：山内委員の件を報告しておく。(前回議事録参照)
- ・環境工学研究者メールマガジンの運用改善について：環境工学研究者名簿が廃止になり管理が十分でない状況であり、環境工学のメールマガジンが届いていない人もいるようなので、周りにリマインドをしてほしい。

3. 審議事項

(1) 若手優秀発表賞について(資料No.1-2,3)

- ・今年度については、既に本委員会、運営委員会で承認された実施要領で進める。
- ・来年度以降の実施要領について主査・幹事より提案：
 - ⇒△がつけ難いとの意見もあり、出欠や聴講したとのチェックに変える案も考えられる。
 - 以前、採点状況を検証した際にはそれなりの採点分布であった。採点方法の妥当性は、過去検証を行っているが、その際に特に見直しを求める意見は出ていない。点数配分についても何回か検討をしている。(佐久間委員)
 - ⇒△の代わりにblankとし、講演を聴いた場合は、出欠欄にチェックする案
 - 3段階で評価するという観点では、昨年までと同じ。
 - 出欠欄が増えると、チェックし忘れの恐れが出てくる。
 - ⇒従前の方法では、○の対象となる発表の範囲が広いことについて
 - ほとんどの発表は○、まれに◎と△がある。ネガティブな評価でなければ△はつかない。
 - 評価方法を変えると、採点傾向も変わる可能性が高い。
 - ⇒点数配分について
 - 昨年度運営委員会で、◎10点、○6点、△3点と決定されている。
(但し、昨年度は実施要領に反映されず、実際には2点、1点、0点で採点された。)
 - 今年度は◎(10点)、○(6点)、△(3点)で採点する。
- ・今年度大会後に、採点傾向を検証し、改めて△の取り扱いについて検討する。
- ・本年度実施要領の加筆修正は、メール審議で行い、資料1-2,3は修正してアップロードする。
ex. 聴講した発表は採点してもらうよう記述すること

4. 各小委員会・WGの活動報告

(1) 固体音小委員会

・漆戸主査(フジタ)に交代。6月中目途に1回目開催予定である。タイヤ衝撃源とボール衝撃源の互換性調査を実施する。昨年度から引き続き固体音評価WGを設置し7/18開催予定。

(2) 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

・5/12 1回目開催。新幹線、在来鉄道は $L_{A,Smax}$ から $L_{A,Eq}$ を算出できる見通しである。貨物列車等については、引き続き検討を行う。

(3) 建築音響測定法小委員会

- ・3/6 開催(2/2シンポジウムの反省会)。シンポジウムの報告を大会へ投稿した。
- ・今季：5/10開催、puセンサー関係等、これまでの振り返りと積み残しの確認をした。
- ・次回：7/6 開催予定

(4) 室内音響小委員会

石渡(永田音響)主査, 青木(日建設計)幹事, 服部(永田音響) 幹事に交代。6/14 開催予定

- ・出版 WG は終了
- ・スピーチプライバシーWG, 3/3 シンポジウム開催 43 名参加。設計関係者の参加有: 音関係者以外 25 名
- ・子供のための音環境 WG

⇒昨年度 5 回開催。学校施設 AIJES 改定に関して, 小学校未満の施設に対する提案を作成予定。

騒音制御工学会でセッション開催, 80 名参加, 東京新聞で取り上げられた。

本年度, ドイツミュンヘンへの視察を計画

(5) 音響数値解析小委員会

3/14 開催。MSC ソフトウェア斎藤氏より実務事例紹介。大会 OS について審議。材の音響特性測定に関して, タイルカーペットなど新たな材料の測定要領を審議。次回 7/7 開催予定。

(6) 音環境規準検討小委員会

平光主査(国総研)に交代。3/29 開催。学校施設, 複合建物の遮音設計ガイドラインの検討, ISO717-2 床衝撃音改定への対応議論を予定。次回 6/7 開催予定

- ・学校 AIJES 改定 WG

現在のフォーマットへの整合のためフォーマット変更。チェックリスト作成の要望があり, 対応を検討中。

学校の範疇を外れる小学校未満の施設等をどう取り込むか, 議論を進める。次回 7/28 開催予定。

(7) 企画・広報WG

・富高主査(大成建設)に交代。4/11 開催。建音検索について, 2016 年度改定を準備する。今後年度ごとに更新を行う。2007 年第 60 回音シンポジウム資料で示された『音環境に関する法規制・規格・基準の現状』についてどのような改定を行うか方針を検討し, ターゲットは音響技術者とする方向。次回 6/13 予定。

(8) 住まい方マニュアル刊行小委員会

3/14 主査幹事にて原稿の修正方針調整。4/11 小委員会開催し, メンバーに修正依頼。5/26 修正原稿を合本の上, 技報堂に確認依頼。今後, 技報堂と微調整の上, レイアウト原稿を作成予定

5. 他学会・研究会の予定

(1) 日本音響学会・建築音響研究会

- ・6/23@小林理研, 7/20,21@北海道大学, 8/10@日本大学駿河台

(2) 日本音響学会・騒音振動研究会

- ・6/9@東大生研, 7/5@鉄道総研, 8/9@日本大学駿河台

6. その他

- ・大会における建築紛争フォーラムについて

⇒今年度大会(中国)では中止となった。

⇒代わりに講演会を今年度大阪で開催予定